

ただいまハンド仏句を片手に、この文章をご覧になっている皆様方へ、今日という日を迎えられた事への慶びと、ご縁のある皆様へ感謝の気持ちを込め、『明けまして、御目出度うございます。本年もどうか、どうか、ご指導の程を衷心よりお願い申し上げます』。

さて、新たな年が明けたわけですが、世の中は不況の冷たい風に煽られ続けており、息苦しくなる程の生活を強いられている人も少なくありません。先行きが不安で、正月早々、手放して祝つてる暇なんて無いという方も多くおられます。

そんな中、毎年恒例となりました清水寺の漢字1文字ですが、平成19年の「偽」に続いて、昨年平成20年は「変」に決定しました。世の中の膿という膿が出まくった「偽」の1年間。そして、良くも悪くも変化し続けた「変」の1年間。目に見える世界は、まさに不況の一途を辿っています。がしかし、見える世界があるとすれば、目に見えない世界があるもので、じゃあ見えない世界とはなんだ？と言えば、それは「精神世界」であります。

いま世間では、地球規模で「エコ（地球に優しい）」の運動が盛んに行われています。リサイクル物が沢山店頭に並んでいます。食べ物にしても、賞味期限が切れた弁当を格安で販売して、大盛況になったスーパーも出現してくる時代になりました。一昔前の、特にバブル期では考えられません。「何かを得れば、何かを失い。何かを失えば、何かを得る」というのは、1つの方程式で決まっている真理です。

戦後六十年以上経った現在の日本を眺めてみると、目に見える世界で世界経済第二位にまで登り詰めました。しかし目に見えない世界では、平和神話が崩壊し、誰彼構わずに命を奪ってしまう日本人が増えてしまいました。

目に見える物（財産・地位・名誉など）ばかりを追い求めてきた結果、「俺さえ楽な生活ができるなら、誰かが苦しんでいても、そんなの知ったこっちゃない」。俺だけ良ければそれで満足…。私は、これだけ頑張っているんだから、お前がもっと頑張れよ…。私が1番で、私の言う事や、なす事は全て正しい…。誰からの指図も受けない…。それに誰にも迷惑をかけてないから、何をしても良いでしょ…。？何で人を殺しちゃいけないの…。？と。こんな恐ろしい事を、悪びれた様子もなく平気で口に出来る日本人が増えてしまいました。「ワビ・サビ・人情」なんて言葉は、もう既に死語になってしまったかの様な私達の日本国です。そんな時代の波に乗り、その流れに呑まれ、染まり過ぎた人間ほど、現在のこの不況が辛く、苦しいものに感じておられる事だと思えます。

しかし、これまでの物欲至上主義の時代でありながら、それでもなおかつ時代に染まらずに、目に見えない世界を大事に過ごしてこられた人もおられるでしょう。おそらく、その人には不況の波を、荒波と感ずる事もなく、今まで通り、質素・儉約の変わらない生活を過ごされておられるのではないのでしょうか？つまり「感謝の心を大切に、自分のためより人のため」をモットーに生きる事は、自然に「エコ」生活を実践する事に繋がっていくのです。

私達の祖先達は、当たり前のように質素儉約の精神を持ち、非常に努力家で忍耐強く、

周囲の人間や自然に感謝の念を抱き、常に生かされているという感謝の気持ちをモットーに生活していました。

温故知新と申しますが、古き良き日本国はどんな社会だったのかを知ること、現代の自由と裕福の有り難さを実感することが出来るはずです。

江戸時代から明治初期に、日本へ訪れた外国人達はみんな口を揃えて、日本国民を大絶賛されています。「世界一の平和神国」と…。

要約して記載すると…

《江戸時代の日本は世界史の中でも特異な社会でした。実に平和で、都市の文化は爛熟して、自然と共生した完璧なりサイクル社会でした。世界は、日本を手本に学ばねばならない》と。または《子供達の楽園・世界一信用できる日本国民》など…です。

(詳しいエピソードは、別号で紹介したいと思います)

古きよき時代の面影はビジョンに繋がるし、そこからエネルギーを得る事が出来ます。

私達には、私達の祖先が大切にしてきた精神世界を、シッカリと継承していかねばならない使命があるでしょう。

目に見えないモノへの敬虔な気持ち、質素儉約の実践、その先には、相手の痛みや苦しみを理解することの出来る人間性を培うことが出来る事でしょう。その結果として、「平和神話」を誇った時代の、あの古き良き日本が復活することが出来るのではないのでしょうか？

ギリシアの哲学者アリストテレスは、「人間は動物の中で最も模倣の上手な動物である」と。子供は大人の背中を見て育ちます。その意味で、家庭では親の生活態度が肝心であることは言うまでもありませんが、組織の中では、上に立つ人間ほど、真心の籠もった、真剣なその背中を部下達に示して、人材育成を図らねばいけない使命があります。

自らの内にある心を、行為として外に働きかけてきた結果が、長年にわたって集団の中で、「かたち」として共有されて、そして高められてきた時に「文化」になります。「人間は模倣の上手な動物です」の言葉を考えると、上に立つ者の責任は重大です。

さあ、新たな一年が始まりました。時は待つてはくれません。

目に見える事物に左右されがちな私達ではありますが、目に見えない世界を基点に物事を考える心の余裕を大切にして頂きたいと思えます。

今年の干支は、ちょうど「丑」じゃないですか。心だけでも、牛の様にユツタリとした中に、ドッシリとした精神世界を築くように、努力していきましょよ。

**生きる充足感、快樂によつてではなく、むしろ苦しみを通じてこそ得られるものです。**

心気を一新して、清々しい気持ちで新年をスタートさせましょよ。